

受験番号

受験番号

— (60点)

問1	<p>自分に対する共感を得たい、という思いを募らせるイン タビューの相手の期待に完全に応えるのでも、相手の話 を否定的に判断するのでもなく、技巧的な話し方の背後 にある本当の意図を受け取るために、淡々と相手の話を 聞くという中間的な応対を心がけているということ。</p>
問2	<p>共感への期待をもとにした話の展開に同意を取り付けよ うとするために技巧が生じ、表面的な言葉の意味と、そ の人の本当の意図との間に懸隔が生じる点で、感情豊か な語りと淡々とした語りは類似しているということ。</p>
問3	<p>共感や同意を取り付けようとして話したことの動機を明 らかにし、その背後にある特定の結果への期待と、それ を実現するための技巧の存在を相手に気づかせるため。</p>
問4	<p>期待通りの共感や同意を手に入れることは、その代償と して新しいことが起きることの可能性を喪失し、失望感 を抱かざるをえなくなることを相手に気づかせるため。</p>
問5	<p>自然に接して暮らす人々に欠けているとされる話し方の 「繊細さ」とは、言葉のやり取りによる権力関係を競う 都会人の駆け引きにおいて必要とされる、言葉の微妙な ニュアンスへの感性を指すものにすぎないということ。</p>
問6	<p>「完全に聞く」というのは、話し手の話の要約や解釈を することでも、その話の善悪を判断することでもなく、 話し手が誠実に語り、聞き手もまた相手が自然の一部で あり思いのままにならない存在であるという謙虚さをもつ てその話の背後にある本当の声を傾聴する、という協力を を不断に行っていくことであるということ。</p>

採点

10

現代の国際化論
言語学 国語

(経済学部 経済工学科)

令和7年度入学試験問題
解答紙
(2枚のうち2枚目)

受験番号

10

受験番号

二 (60点)

採点

<p>問1 資源の枯渇、CO₂排出量の許容限界という環境危機の問題、マネーの供給拡大に限界があるという金融資本主義の問題などに見られる、無限の経済成長を前提あるいは目的とする資本主義の持続可能性が問われていること。 未来の視点から見て、人間が主体となり地球上での活動範囲を広げ人間中心の時代に変わったことを示す「人新世」の概念は、これまでの人間や社会のありようについての学問に根本的な再考を促すものだから。</p>	<p>問2 人間の活動が激しく広範になったことで、生存条件である地球環境の荒廃が感じられ、それまで自覚されてこなかった地球環境の限界が、人間にとって急速に現実味を帯びたものとして意識されるようになるということ。</p>	<p>問3 理性や意思を持ち自由を行使して世界を創り出す主体として人間を捉える見方が、人間が創造の素材や道具として自然を際限なく探索、分類、分析、開発する客体とみなして支配するようになったということ。 本来は自然との関わりの中で恵みを受け取ることによって成立していた農耕が、人間の都合に合わせて農薬などを使うことでより効率的な生産を目指し、自然を非人格的な生産の道具として利用する農業となったこと。</p>	<p>問4 人間と人間以外のモノとの存在論的な非対称性を前提とする近代法的思考の枠組みでは、人間は抽象的な権利義務の帰属主体とされ、ヒト以外のすべての具体的なモノを一方的に所有できる存在として定義されるから。</p>
--	---	---	--

--	--